

地域連携だより



正確で安全な画像検査を目指して



第1診療支援部 部長
中央放射線科 科長

ひらた あきよし
平田 昭美

中央放射線科は9名の診療放射線技師が在籍し、一般撮影装置（FPD）2台、TV装置1台、CT（16列）1台、MRI（1.5T）1台、ポータブル撮影装置2台で業務にあたっています。すべての検査機器を、いつでも、どのスタッフでも検査ができるよう、体制を整えています。

昨今、「読影の補助」という言葉を耳にすることが多いですが、これは撮影者が気づいた画像診断上の情報をドクターに報告する作業です。この異常に気づく力を向上させるため放射線科では「上部消化管のWebを使用した勉強会」「画像診断をまとめて発表する科内勉強会」を行っています。上部消化管は大阪消化管撮影研究会のサイトを利用し、過去の症例の写真をプロジェクターを通して皆で閲覧し、病変の部位、個数、表面の性状、深達度などをそれぞれが根拠を考えながらスケッチしていきます。意見交換後に内視鏡画像、手術標本をみて、自分の考え方、アプローチの

仕方などを修正していきます。この作業が胃がん検診の読影力の向上、撮影技術の向上へとつながっていくと考えます。「科内勉強会」は医療雑誌『画像診断』を中心に、自分が勉強したことを科内で共有する場です。各部位の疾患を画像を通じて勉強し、学んだことを積み重ねていくようにしています。

読影力の向上とともに課題とされるのが、CT検査の放射線被曝です。これは患者さんも気にされています。被曝線量を下げる機能は機械にもついています。放射線管理士2名、CT認定技師2名で医療被曝の適正化を行っています。

また、MRIは近隣の開業医の先生方にも利用していただけるようにしています。当院のMRIは比較的待ち時間も少なく、ご要望があれば、早ければ当日、遅くても2、3日中には撮影できます。CT・MRI画像は院外の読影機関でチェックされますので、患者さんに、より正確な画像診断情報を提供することができます。もっと利用しやすいよう、体制をさらに変更していきたいと考えています。これからも地域の患者さんの要望に応えられる画像検査を目指していきます。

富山協立病院 山本院長先生にご講演いただきました

8月31日(水)、当院5階大講堂にて、富山協立病院の山本美和院長先生より「中小病院が行う在宅療養支援」～その強みと課題～と題してご講演いただきました。富山協立病院は在宅療養支援病院として、「自らが訪問する」という形で在宅医療を担っておられます。

中小病院が在宅療養支援を行うメリットとして、「入院できる安心感」「複数の医師で協力し合えるところ」があるとお聞きしました。99床で全科往診を行っている当院にも当てはまるどころがあり、貴重な学びの機会を得ることができました。地域医療部 部長でもある豊田茂郎副院長に講演の感想を聞きました。



富山協立病院 山本美和院長

【感想】

富山協立病院では在宅医療が充実していると聞いていたので、今年の夏に見学させて頂き、当院で行っている在宅医療との違いを痛感しました。その時から、富山協立病院の在宅医療が当院の在宅医療の目標となりました。今回、山本先生に真生会に講演に来ていただき、組織として整備された在宅医療の在り方を改めて、見せて頂きました。見学の時は数人だけでしたが、講演会では医師、看護師はじめ多くの職員が参加して、教えて頂いたことは大きな前進であったと思います。早く近づけるように当院の体制を整備したいと思います。

射水市糖尿病 Day2016 に出演！ 「劇団 TIPS」

11月3日(木・祝日)、射水市の高周波文化ホールで行われた「射水市糖尿病 Day2016」に、当院スタッフで結成された「劇団 TIPS」が登場しました。11月14日の「世界糖尿病デー」にちなんで行われているこのイベントは、今年で6回目を迎えます。「劇団 TIPS」は昨年から参加し、富山福祉短期大学の学生の皆さんと一緒に「糖尿病劇場」に出演しています。劇のテーマは、「若者の糖尿病・高齢者の糖尿病 ロコモ対策」。第一部では、健康診断で糖尿病を指摘されたにもかかわらず、病院に行かない息子とその父(糖尿病)のもとに、療養指導戦士ぴかりんが現れるというお話。第二部は、筋肉や関節が弱って生活しづらくなる「ロコモティブ症候群」をテーマに、来場者の皆さんと「ロコモチェック」をしました。2年連続参加している、施設管理課の酒井周建副主任に感想を聞きました。

【感想】

今回は初挑戦のスライド操作を兼ねて、2度目となる声の出演(ナレーション役)でした。新メンバー3名を迎えて、脚色、演出、セリフの言い回しなど創意工夫を重ねて全メンバーで作上げた糖尿病劇場は、地域の皆さまに笑顔と健康をお届けできたと思っています。慢性疾患における新たなアプローチとして今後の展開に期待します。



糖尿病の親子のもとに現れた「ぴかりん」



足腰が弱った種田のおじいさん(真ん中)と一緒にロコモチェック！

感染対策室の活動

感染対策室 副室長 梅田加洋子（感染管理認定看護師）

感染対策室は、院内感染対策に関する総合窓口としての役割を担っています。病院はさまざまな感染症の患者さんの治療を行うところです。感染対策室は、患者さんやご家族、病院職員を含めて病院に出入りするすべての方を感染から守るために活動しています。また、その役割・機能から院長直轄の独立部門として、院内感染の防止をし、感染症発生時には拡大防止を主眼として、適切に対応するため組織横断的に活動しています。

【構成】

室長 医師（ICD） 専任1名
副室長 感染管理認定看護師 専任1名

【主な活動内容】

- ・院内感染対策に関する全般的活動（ICT 院内ラウンド、コンサルテーション）
- ・院内感染対策に関する研修・教育の実施と管理（院内感染対策講習会企画・運営）
- ・院内感染発生時の対応（職業感染対策、アウトブレイク対策）
- ・院内感染に関わる院内組織の調整と補佐
- ・医療関連感染に関すること（サーベイランス集計結果の分析、報告など）
- ・感染対策に関する地域連携

感染対策室は、患者さんを実際に診療・看護することはありませんが、院内感染対策に関する病院全体の問題点を把握し、監査、改善、企画、教育的指導を行うことで、病院を縁の下から支えています。

地域包括ケア拠点病院の役割として、感染対策に関する相談、出張講座などを今後積極的に行い、患者さん、ご家族、職員及び出入りするすべての方々が、無用な感染に脅かされないよう安心・安全・満足の医療が届けられるよう今後も努力を続けていきます。

◆インフルエンザについて◆

インフルエンザ流行の季節となりました。まず、予防が大切です。当院では昨年のワクチンの効果を検証しました。インフルエンザワクチンは、A型は、約50%感染を減らすことがわかりました。

当院では、インフルエンザの可能性がある方は、内科の他の患者さんと待合や診察室を分け、インフルエンザの対策を行っています。



10月20日開催の院内医学講座では、梅田看護師が「インフルエンザにかからないために」と題して話をしました。写真はマスクの正しい付け方を説明しています。

第5回健康セミナーを終えて

地域医療部 医療福祉相談室 医療ソーシャルワーカー 松林真奈

10月29日(土)、アイザック小杉文化ホール ラポール(まどかホール)にて、第5回健康セミナーを開催いたしました。「健康への架け橋」と題し、当院内科の清水和彦医師が著書『心と体の健康十講』をもとに健康を保つ秘訣について講演しました。

オープニングは、フルートの谷口遥さんとピアノの庄司悦子さんのアンサンブルで幕を開けました。フルートとピアノの優雅な音色に皆さん聞き入っていました。清水医師のリクエスト曲、『パッヘルベルのカノン』とアンジェラ・アキの『手紙』の演奏もあり、清水医師も客席に移動して演奏を聞いていました。

講演の前半は運動と食事についての話でした。故事を用いた健康に関する心がけの話や、スワイショウやヨガのポーズの紹介がありました。スワイショウとは体をひねり、でんでん太鼓のようにくるくる腕を振る体操です。肩こりや、不眠、胃腸障害に有効で、日常生活に取り入れやすく、継続しやすい運動です。

講演の後は恒例となったパネルディスカッションでした。司会・進行はおなじみ、富山シティエフエムアナウンサーの水上啓子さんでした。今回は日本糖尿病療養指導士の宮本看護師、宮下管理栄養士、田邊臨床心理士、種田理学療法士がパネリストとして参加しました。種田理学療法士からは日常生活に簡単に取り入れられる運動の紹介がありました。宮下管理栄養士からは「病気にもよるが、食べてはいけない物があるわけではなく、ほどほどが一番」と気持ちが軽くなるコメントがありました。水上さんの司会で和やかな雰囲気の中、前半の講義の内容をさらに深めることができました。

後半は心の健康についての講演でした。簡単なリラックス方法や腹式呼吸、印象的な肛門呼吸の紹介、スポーツ選手のルーティンや監督から選手へのペップトークの話など、誰もが見たことのある具体例を交えながらの分かりやすい話で、心の健康を保つための習慣について知ることができました。

後半のパネルディスカッションでは、宮本看護師から就寝前に1日の嬉しかったことを3つ話す習慣の紹介がありました。田邊臨床心理士からは「駄目なことをしてしまった」と自分を責めないで、自分を許して欲しいと話があり、肩の力が抜けた方も多かったと思います。

簡単に始められる習慣や心がけの話が多く、これなら明日から始められると思われた方も多かったのではないのでしょうか。健康セミナーが皆様の健康への一助になればと思います。



講演する清水和彦医師

【パネリストを務めたスタッフ】



宮本晴江 看護師



種田啓之 理学療法士



田邊裕 臨床心理士



宮下希世香 管理栄養士

参加者の声(アンケートより)

- ・今回初めて参加してみて、とてもわかりやすく聞くことができました。プラス思考を常に心にもち、健康に努めたいと思いました。また、セミナーに参加したいと思いました。
- ・具体的に教えて頂き、自分もやってみよう、出来るかもという心にさせてもらいました。